

取扱説明書

DuraVision® FDS1782T

タッチパネル装着カラー液晶モニター

重要

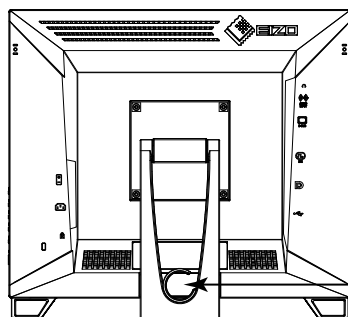
ご使用前には必ずこの「取扱説明書」および「使用上の注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。

- ・モニターの設置 / 接続については、「セットアップガイド」を参照してください。
- ・「取扱説明書」を含む最新の製品情報は、当社の Web サイトから確認できます。

<http://www.eizo.co.jp>



警告表示位置



⚡ ⚠
WARNING
 RISK OF ELECTRIC SHOCK. DO NOT OPEN.
AVERTISSEMENT
 RISQUE DE CHOC ELECTRIQUE. NE PAS OUVRIR.
WARNUNG
 GEFAHR DES ELEKTRISCHEN SCHLAGES. RÜCKWAND NICHT ENTFERNEN.
警告
 触电危険、请勿打开后盖。
警告
 感電の恐れあり、カバーをあげないでください。
 The equipment must be connected to a grounded main outlet.
 L'appareil doit être relié à une prise avec terre.
 Jordet stikkontakt skal benyttes når apparatet tilkobles datanett.
 Apparaten skall anslutas till jordat nätuttag.
 设备必须连接到接地的电源插座。
 電源コードのアースは必ず接地してください。

本体に使われている記号

記 号	意 味
	電源ボタン 本機の電源をオンまたはオフにします。
	交流
	危険警告・感電
	注意 使用上の注意内、「絵表示について」参照

製品の仕様は販売地域により異なります。お買い求めの地域に合った言語の取扱説明書をご確認ください。

- 本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
- 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- 本機の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

モニターについて

この製品は、文書作成やマルチメディアコンテンツの閲覧など一般的な用途に適しています（1日あたり約12時間の使用を想定）。

この製品は、日本国内専用品です。日本国外での使用に関して、当社は一切責任を負いかねます。

This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.

本書に記載されている用途以外での使用は、保証外となる場合があります。

本書に定められている仕様は、付属の電源コードおよび当社が指定する信号ケーブル使用時にのみ適用いたします。

この製品には、当社オプション品または当社が指定する製品をお使いください。

ラッカー系の塗料を使用した机にこの製品を置くと、スタンドの底面に使用しているゴムの成分により、色が付着する場合があります。ご使用前にご確認ください。

製品内部の電気部品の動作が安定するまでに、約30分かかります。モニターの調整は電源を入れて30分以上経過するまでお待ちください。

長時間使用することによる輝度変化を抑え、安定した輝度を保つためには、ブライトネスを下げて使用されることをお勧めします。

同じ画像を長時間表示することによって、表示を変えたときに前の画像が残像として見えることがあります。長時間同じ画像を表示するようときには、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。表示する画像によっては、短い時間でも残像が見えることがあります。その場合、画像を変更したり、数時間電源を切った状態にすると、解消されることがあります。

表示状態を長時間続けると、表示面に黒いシミやムラ、焼き付きが発生する場合がありますのでご注意ください。モニターを長くお使いいただくため、定期的にモニターの電源をオフにすることを勧めします。

この製品を美しく保ち、長くお使いいただくためにも定期的にクリーニングをおこなうことを勧めします（「クリーニングの仕方」（P.4）参照）。

液晶パネルは、非常に精密度の高い技術で作られていますが、画素欠けや常時点灯する画素が見える場合がありますので、あらかじめご了承ください。なお、有効ドット数の割合は99.9994%以上です。

液晶パネルに使用されるバックライトには寿命があります。長時間連続使用など、ご使用状態によっては、バックライトの寿命が早まり、交換が必要となる場合があります。画面が暗くなったり、ちらついたり、点灯しなくなったときには、別紙「お客様ご相談窓口のご案内」に記載の窓口にお問い合わせください。

液晶パネルを固い物や先のとがった物などで押したり、こすったりしないようにしてください。傷が付く恐れがあります。なお、ティッシュペーパーなどで強くこすっても傷が入りますのでご注意ください。

この製品を冷え切った状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、製品の表面や内部に露が生じることがあります（結露）。結露が生じた場合は、結露がなくなるまで製品の電源を入れずにお待ちください。そのまま使用すると故障の原因となることがあります。

（タッチパネル使用時の注意事項）

次の点に注意してください。故障の原因となります。

- ・タッチパネルを強く押したり、こすったり、突いたりしないでください。
- ・ボールペンや金属類などの硬い物でタッチパネルをタッチしないでください。

クリーニングの仕方

キャビネットや液晶パネル面の汚れは、付属のクリーニングクロスを使用して、やさしくふき取ってください。

注意点

- タッチパネル面とタッチパネルの外枠との間に、液体が入らないように注意してください。
 - アルコール、消毒薬などの薬品は、キャビネットや液晶パネル面の光沢の変化、変色、色あせ、画質の劣化などにつながる恐れがあります。
 - シンナー、ベンジン、ワックス、研磨クリーナーは、キャビネットや液晶パネル面をいためるため絶対に使用しないでください。
-

モニターを快適にご使用いただくために

- 画面が暗すぎたり、明るすぎたりすると目に悪影響をおよぼすことがあります。状況に応じてモニター画面の明るさを調整してください。
- 長時間モニター画面を見続けると目が疲れますので、1時間に約10分の休憩を取ってください。

目次

モニターについて	3	4-3. 画面調整	20
クリーニングの仕方	4	● 画面サイズ	20
モニターを快適にご使用いただくために	4	● スムージング	20
目次	5	● アナログ調整	21
第1章 はじめに	7	4-4. サウンド設定	22
1-1. 特長	7	● 音源	22
● フルフラットデザイン	7	4-5. Power Manager	23
● タッチしやすいスタンド機構（レイド バックスタンド仕様）	7	● パワーセーブ	23
● 10点マルチタッチ対応	7	● Ecoタイマー	23
1-2. 各部の名称と機能	8	4-6. 本体設定	24
● レイドバックスタンド仕様	8	● 入力信号	24
● チルトスタンド仕様	9	● 電源ランプ	24
1-3. タッチペンホルダー取付方法	10	● 言語選択	24
1-4. EIZO LCDユーティリティディスクについて ...	10	● メニュー設定	25
● ディスクの内容と概要	10	● リセット	25
第2章 基本の調整 / 設定	11	4-7. インフォメーション	25
2-1. タッチパネルの有効 / 無効を設定する	11	4-8. 操作ボタンのロック	25
2-2. 入力信号を切り替える	11	第5章 こんなときは	26
2-3. 明るさを調整する	12	5-1. 画面が表示されない場合	26
2-4. 音量を調整する	12	5-2. 画面に関する症状（デジタル、アナログ共 通）	27
第3章 タッチパネルの設定	13	5-3. 画面に関する症状（アナログのみ）	28
3-1. タッチパネルの設定方法	13	5-4. 画面に関する症状（デジタルのみ）	28
3-2. タッチ位置を補正する	13	5-5. タッチパネルに関する症状	29
3-3. タッチパネルの操作設定をおこなう	15	5-6. その他の症状	31
第4章 詳細な調整 / 設定	16	第6章 ご参考に	32
4-1. 設定メニューの基本操作方法	16	6-1. オプションアーム取付方法	32
4-2. カラー調整	17	6-2. 複数のコンピュータを接続する	34
● カラーモード	17	6-3. 仕様	35
● ブライツネス	17	● 対応解像度	36
● コントラスト	18	● 主な初期設定値	37
● 色温度	18	● オプション品	37
● ガンマ	18	付録	38
● 詳細設定	19	商標	38
● カラーリセット	19	ライセンス	38
		VCCI	38

医療規格	38
その他規格	38
EMC情報	39
アフターサービス	44

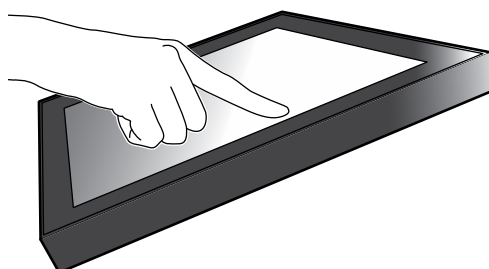
第1章 はじめに

このたびは当社カラー液晶モニターをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

1-1. 特長

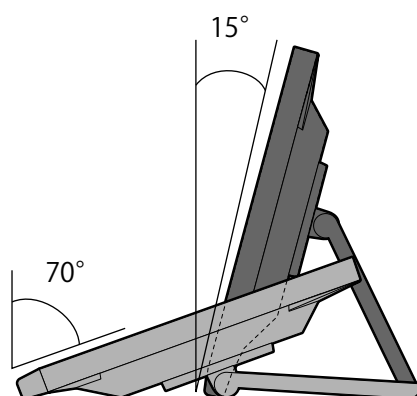
● フルフラットデザイン

ベゼル部に段差のないフルフラットデザインを採用。指先でも画面の隅までしっかりとタッチできます。



● タッチしやすいスタンド機構（レイドバックスタンド仕様）

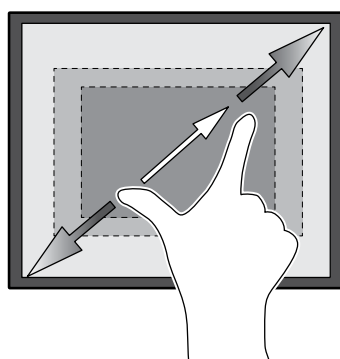
チルト角を無段階に調整可能。オフィスワークやマルチタッチ操作など、使い方にあった作業しやすい画面位置にスムーズに変更できます。



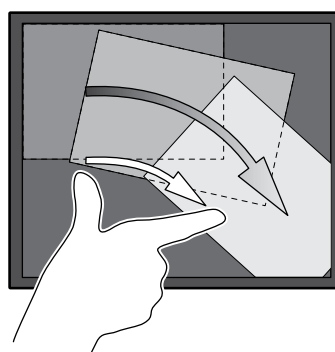
● 10点マルチタッチ対応

マルチタッチによる拡大／縮小、回転などの操作が行えます。画面に軽く触れるだけで反応するため、フリックやドラッグ操作も快適です。

拡大／縮小

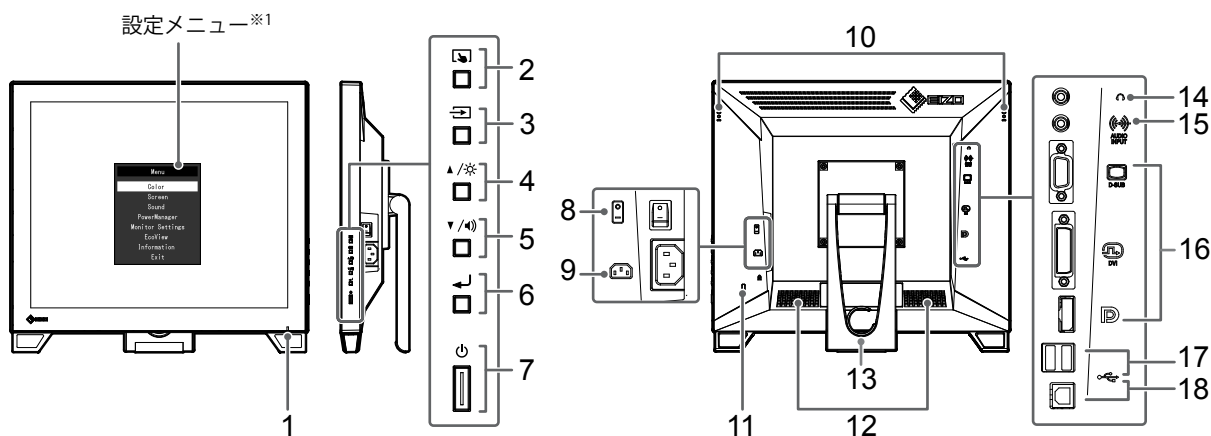


回転



1-2. 各部の名称と機能

● レイドバックスタンド仕様



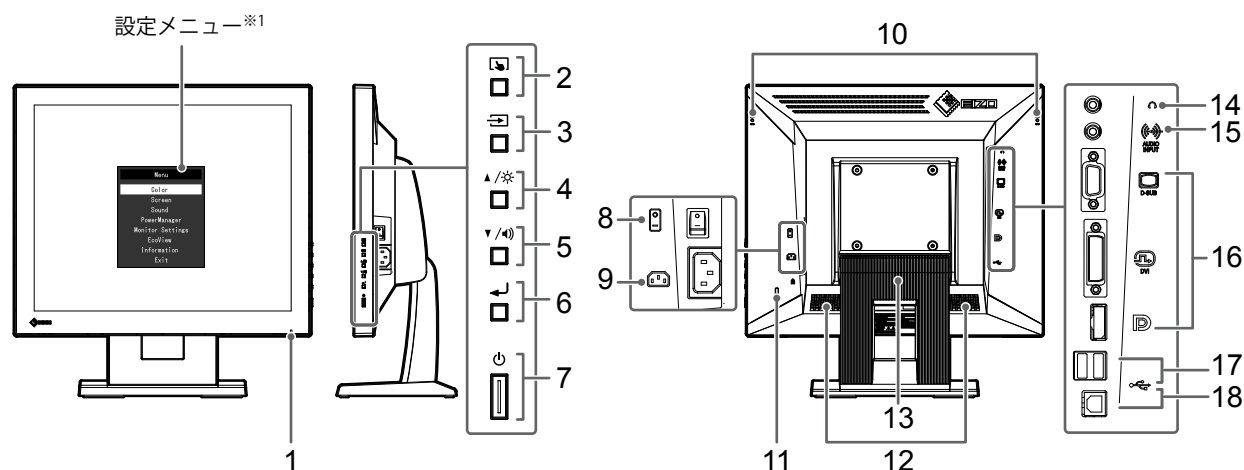
1. 電源ランプ	モニターの動作状態を表します。 青： 画面表示 橙： 省電力モード 消灯： 主電源オフ / 電源オフ
2. ボタン	タッチパネルの有効 / 無効を切り替えたり、タッチ感度を調整します (P.11)。
3. ボタン	表示する入力信号を切り替えます (P.11)。
4. ▲/※ ボタン※2	設定メニュー表示中に項目の選択や機能の調整または設定をしたり、明るさ (ブライツネス) 調整画面を表示します (P.12)。
5. ▼/◀ ボタン※2	設定メニュー表示中に項目の選択や機能の調整または設定をしたり、音量調整画面を表示します (P.12)。
6. ボタン	設定メニューを表示し、各メニューの調整項目を決定したり、調整結果を保存します (P.16)。
7. ボタン	電源のオン / オフを切り替えます。
8. 主電源スイッチ	主電源のオン / オフを切り替えます。 : オン、○ : オフ
9. 電源コネクタ	電源コードを接続します。
10. タッチペンホルダー取り付け穴※3	タッチペンホルダーを取り付けます。
11. 盗難防止用ロック	Kensington社製のMicroSaverセキュリティシステムに対応しています。
12. スピーカー	音声を再生します。
13. スタンド (ケーブルホルダー付)	角度が調整できます。
14. ヘッドホンジャック	ヘッドホンを接続します。
15. アナログ音声入力コネクタ	外部音声をモニターで再生できるようにします。
16. 信号入力コネクタ	コンピュータと接続します。 上 : D-Sub15ピン (ミニ) コネクタ 中 : DVI-Dコネクタ 下 : DisplayPortコネクタ
17. USBダウンストリームポート	USB2.0に対応している周辺機器と接続できます。
18. USBアップストリームポート	タッチパネルモニターとして使用する場合、またはUSBハブ機能を使用する場合にUSBケーブルを接続します。

※1 使用方法是、「4-1. 設定メニューの基本操作方法」 (P.16) を参照してください。

※2 この取扱説明書では、これ以降 ▲/※ のボタンを ▲、▼/◀ のボタンを ▼ と表記する場合があります。

※3 タッチペンホルダーはタッチペン (オプション品 (P.37)) の付属品です。取り付け方法は「1-3. タッチペンホルダー取付方法」 (P.10) を参照してください。

● チルトスタンド仕様



1. 電源ランプ	モニターの動作状態を表します。 青： 画面表示 橙： 省電力モード 消灯： 主電源オフ / 電源オフ
2. ボタン	タッチパネルの有効 / 無効を切り替えたり、タッチ感度を調整します (P.11)。
3. ボタン	表示する入力信号を切り替えます (P.11)
4. ▲ / ※ ボタン※ ²	設定メニュー表示中に項目の選択や機能の調整または設定をしたり、明るさ (ブライトネス) 調整画面を表示します (P.12)。
5. ▼ / ボタン※ ²	設定メニュー表示中に項目の選択や機能の調整または設定をしたり、音量調整画面を表示します (P.12)。
6. ボタン	設定メニューを表示し、各メニューの調整項目を決定したり、調整結果を保存します (P.16)。
7. ボタン	電源のオン/オフを切り替えます。
8. 主電源スイッチ	主電源のオン/オフを切り替えます。 : オン、○ : オフ
9. 電源コネクタ	電源コードを接続します。
10. タッチペンホルダー取り付け穴※ ³	タッチペンホルダーを取り付けます。
11. 盗難防止用ロック	Kensington社製のMicroSaverセキュリティシステムに対応しています。
12. スピーカー	音声を再生します。
13. スタンド	角度が調整できます。
14. ヘッドホンジャック	ヘッドホンを接続します。
15. アナログ音声入力コネクタ	外部音声をモニターで再生できるようにします。
16. 信号入力コネクタ	コンピュータと接続します。 上 : D-Sub15ピン (ミニ) コネクタ 中 : DVI-Dコネクタ 下 : DisplayPortコネクタ
17. USBダウンストリームポート	USB2.0に対応している周辺機器と接続できます。
18. USBアップストリームポート	タッチパネルモニターとして使用する場合、またはUSBハブ機能を使用する場合にUSBケーブルを接続します。

※1 使用方法は、「4-1. 設定メニューの基本操作方法」 (P.16) を参照してください。

※2 この取扱説明書では、これ以降 ▲ / ※ のボタンを ▲、▼ / のボタンを ▼ と表記する場合があります。

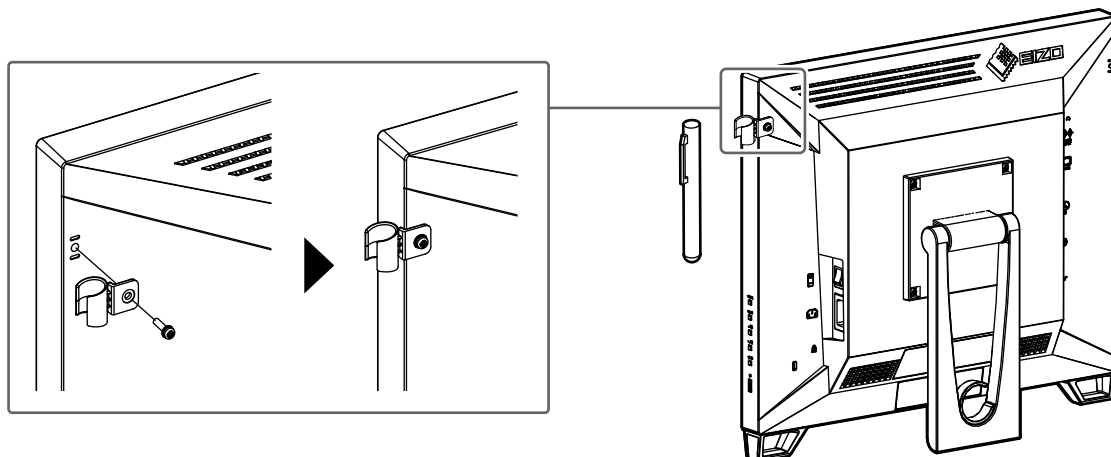
※3 タッチペンホルダーはタッチペン (オプション品 (P.37)) の付属品です。取り付け方法は「1-3. タッチペンホルダー取付方法」 (P.10) を参照してください。

1-3. タッチペンホルダー取付方法

参考

- ・タッチペンホルダーはタッチペン（「オプション品」（P.37））の付属品です。

モニター背面の左右いずれかの穴にタッチペンホルダーを取り付けます。取り付けには、タッチペンに付属されているねじを使用してください。



1-4. EIZO LCDユーティリティディスクについて

この製品には「EIZO LCDユーティリティディスク」（CD-ROM）が付属しています。ディスクの内容やソフトウェアの概要は次のとおりです。

● ディスクの内容と概要

ディスクには、調整用のソフトウェア、タッチパネル用のソフトウェア、取扱説明書が含まれています。各項目の起動方法や参照方法はディスク内のReadmeja.txtを参照してください。

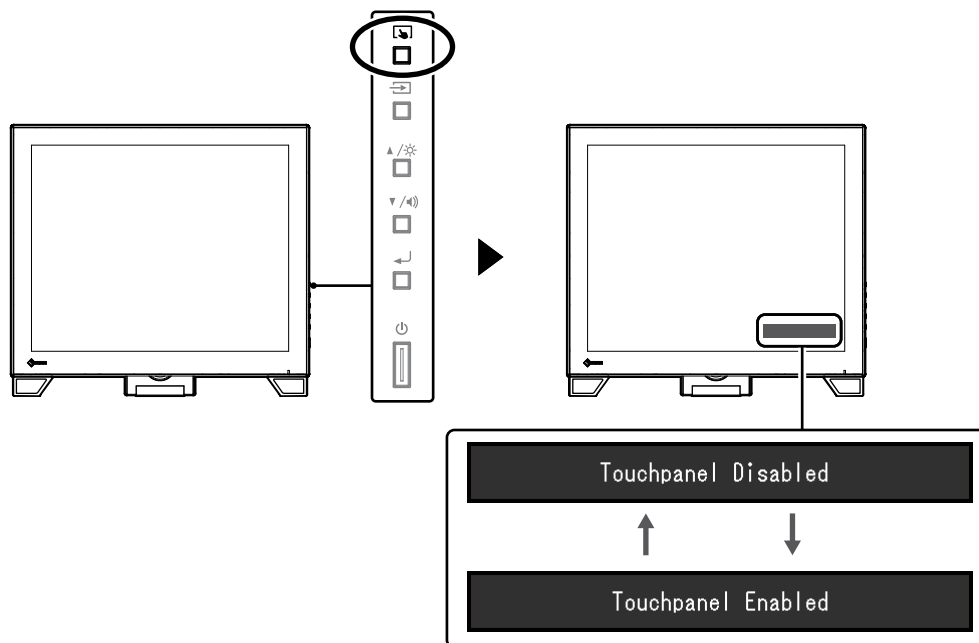
内容	概要
タッチパネルドライバ	当社提供のタッチパネルドライバです。※1
TPOffset	タッチパネルの感度を調整するソフトウェアです。※1 タッチ操作が効かなかったり、強く押さないと反応しないような場合にご利用ください。
モニターの取扱説明書（PDFファイル）	
製品寸法図（PDFファイル）	
Readmeja.txtファイル	

※1 Windows専用です。インストール方法や使用方法については、ディスク内のそれぞれの取扱説明書を参照してください。

第2章 基本の調整 / 設定

2-1. タッチパネルの有効 / 無効を設定する

タッチパネルの有効 / 無効を切り替えることができます。一時的にタッチパネル機能を無効にしたい場合などに利用できます。

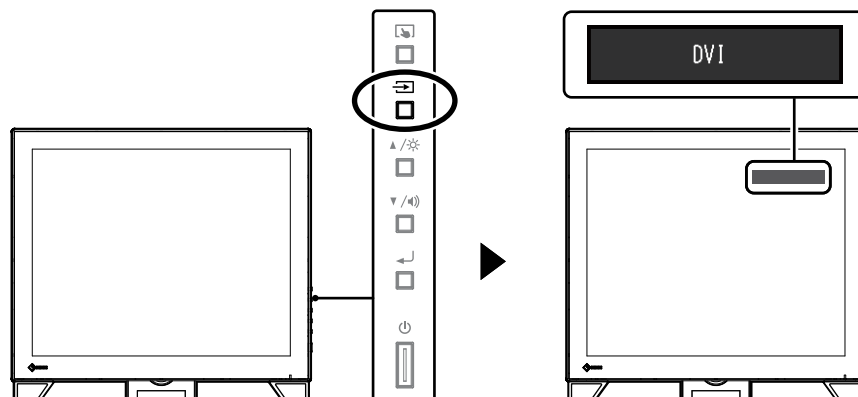


参考

- [] を長押しすることでタッチ感を調整できます。

2-2. 入力信号を切り替える

モニターに複数の信号を入力している場合、画面に表示する信号を切り替えることができます。画面右上に選択された入力ポート名が表示されます。



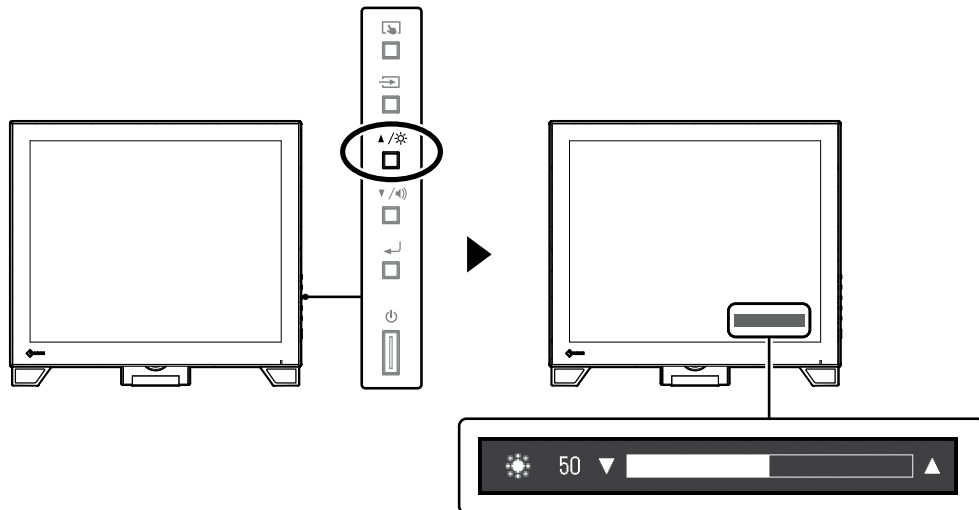
2-3. 明るさを調整する

設置環境やお好みにあわせて、画面の明るさを調整できます。

バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定範囲

0 ～ 100

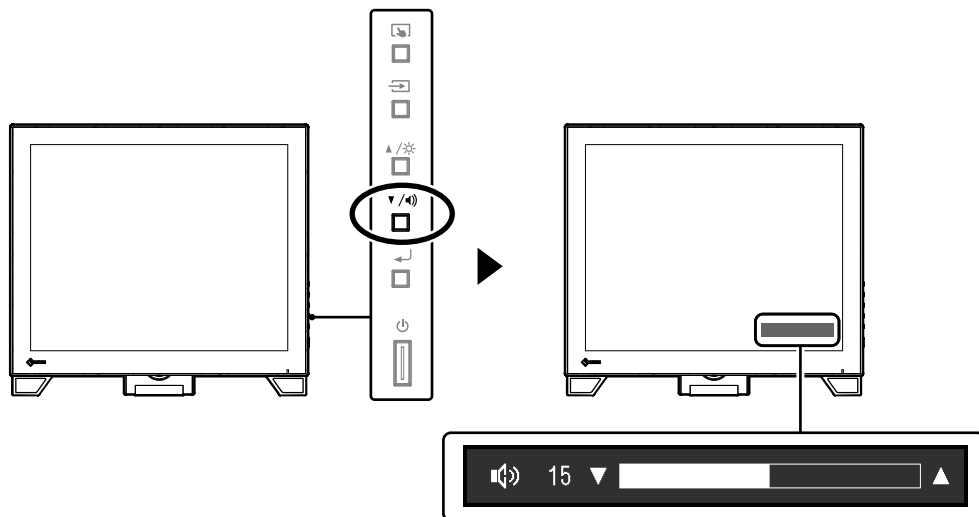


2-4. 音量を調整する

スピーカーやヘッドホンの音量を個別に調整することができます。

設定範囲

0 ～ 30



第3章 タッチパネルの設定

3-1. タッチパネルの設定方法

この製品のタッチパネルの機能は、使用するドライバおよびその設定により異なります。用途に合わせて設定してください。

機能	Windows標準ドライバ	専用のタッチパネルドライバ (DMT-DD) ^{※1}	
ドライバのインストール	不要	必要	
タッチ音の出力	×	○	
複数接続 ^{※2}	○ ^{※3}	○	
動作モード	タッチデジタイザー ^{※4}	タッチデジタイザー ^{※4,5}	マウスエミュレーション ^{※5}
マルチタッチ操作	○	○	×

※1 EIZO LCDユーティリティディスク (CD-ROM) に収録されています。

※2 ○：2台以上のこのモニターを1台のコンピュータに接続可能

※3 Windows 11 / Windows 10 のみ可能

※4 マウスエミュレーションで設計されたアプリケーション上ではタッチ操作が認識されない場合があります。

※5 設定方法の詳細はタッチパネルドライバの取扱説明書 (CD-ROM内) を参照してください。

参考

- ・ 設定が完了したら、CD-ROM内のソフトウェア「TPOffset」を実行し、タッチパネルの感度を調整してください。

Windows標準ドライバを使用する場合は、以降の内容を参照して設定します。

3-2. タッチ位置を補正する

タッチした位置とタッチに反応して表示されるカーソルの位置を合わせるために補正します。

注意点

- ・ 大きな導電物の影響を受けやすいため、手や金属などを画面に近づけないでください。
- ・ 操作中に「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示された場合は、画面の指示に従ってください。

1. Windowsのコントロールパネルを開きます。

開き方はOSによって異なります。

Windows 11

1. スタートメニューの「すべてのアプリ」－「Windowsツール」－「コントロールパネル」をクリックします。

Windows 10

1. スタートメニューの「すべてのアプリ」－「Windowsシステムツール」－「コントロールパネル」をクリックします。

Windows 8.1

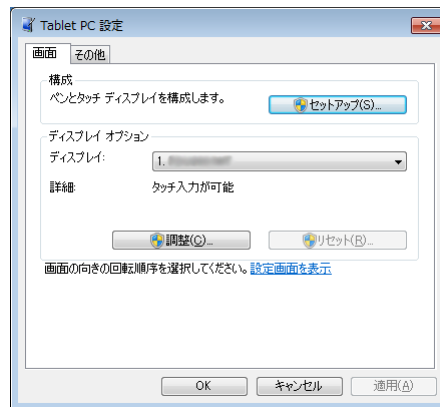
1. 「スタート」画面下の⓪をクリックします。
「アプリ」画面が表示されます。
2. 「Windows システム ツール」内の「コントロール パネル」をクリックします。

Windows 7

1. 「スタート」－「コントロール パネル」をクリックします。

2. 「ハードウェアとサウンド」 - 「タブレットPC設定」 (Windows 11 / Windows 10 / Windows 8.1) / 「Tablet PC設定」 (Windows 7) をクリックします。

「タブレットPC設定」 / 「Tablet PC設定」画面が表示されます。



3. 「画面」タブの「セットアップ」をクリックします。

背景が白色のタッチスクリーン指定画面が表示されます。

注意点

- ・ モニターをマルチモニター環境で使用する場合は、表示される画面に従って、タッチスクリーンを指定してください。

4. 画面を指でタッチします。

タッチした画面がタッチスクリーンであることが認識されます。

5. キーボードの「Enter」を押します。

「タブレットPC設定」 / 「Tablet PC設定」画面に戻ります。

6. 「調整」をクリックします。

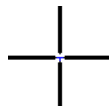
背景が白色の画面が表示されます。

注意点

- ・ モニターをマルチモニター環境で使用する場合は、「ディスプレイ」のプルダウンメニューでタッチ位置の補正をおこなうモニターを選択してから、「調整」をクリックしてください。

7. タッチマーカー（十字）を指で数秒間タッチして離します。

タッチマーカーは画面の左上、右上、左下、右下の順で16箇所表示されます。



参考

- ・ 2回目以降、タッチマーカーの表示は4箇所となります。

8. タッチ位置の補正が完了したら、「はい」をクリックして調整データを保存します。

9. 「OK」をクリックして画面を閉じます。

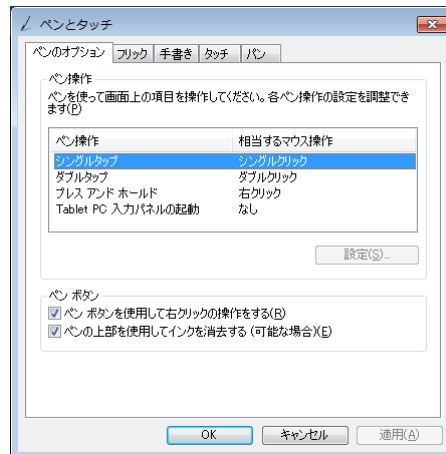
3-3. タッチパネルの操作設定をおこなう

1. Windows のコントロール パネルを開きます。

開き方はOS によって異なります。（P.13参照）。

2. 「ハードウェアとサウンド」 - 「ペンとタッチ」 をクリックします。

「ペンとタッチ」画面が表示されます。



「ペンとタッチ」画面でタッチパネルの操作設定をおこないます。設定の詳細は、各設定画面やWindowsのヘルプなどを参照してください。

3. 設定が完了したら、「OK」をクリックして画面を閉じます。

第4章 詳細な調整/設定

この章では、設定メニューを使ってモニターを詳細に調整/設定する方法を説明します。

4-1. 設定メニューの基本操作方法

1. 設定メニューの表示

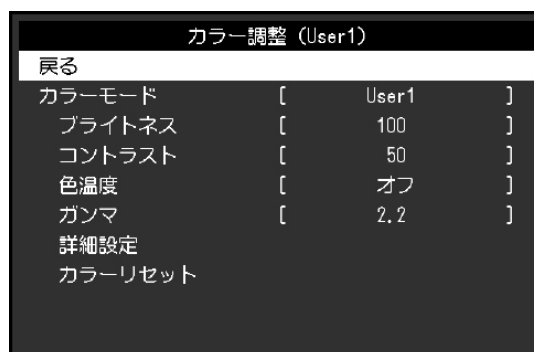
1. ◀を押し、設定メニューを表示します。

2. 調整/設定

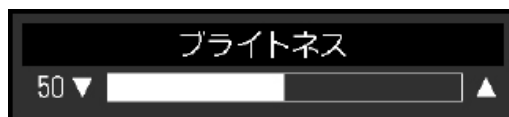
1. ▲▼で、調整/設定したいメニューを選択し、◀を押します。サブメニューが表示されます。



2. ▲▼で、調整/設定したい項目を選択し、◀を押します。調整/設定メニューが表示されます。



3. ▲▼で、調整/設定し、◀を押して確定します。



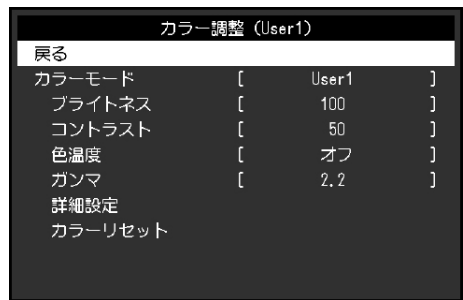
3. 終了

1. サブメニューで「戻る」を選択し、◀を押します。設定メニューが表示されます。
2. 設定メニューで「メニューオフ」を選択し、◀を押します。設定メニューが終了します。

参考

- ・◀をすばやく続けて2回押しても設定メニューを終了させることができます。

4-2. カラー調整



● カラーモード

モニターの用途に応じた表示モードに簡単に切り替えることができます。

モード	目的
User1	好みに応じた設定をおこなう際に選択します。
User2	
sRGB	sRGB対応の周辺機器と色を合わせる場合に適しています。

調整できる機能は、カラーモードにより異なります。

○：調整可 —：調整不可

機能		カラーモード		
		User1	User2	sRGB
ブライツネス		○	○	○
コントラスト		○	○	—
色温度		○	○	—
ガンマ		○	○	—
詳細設定	色合い	○	○	—
	色の濃さ	○	○	—
	オーバードライブ	○	○	—
	ゲイン	○	○	—
リセット		○	○	○

注意点

- ・製品内部の電気部品の動作が安定するのに、約30分かかります。モニターの調整は電源を入れて30分以上経過するまでお待ちください。
- ・アナログ信号のカラー調整をおこなうときは、最初にレンジ調整をおこなってください（「[自動レンジ調整](#)」（P.21）参照）。
- ・モニターにはそれぞれ個体差があるため、複数台を並べると同じ画像でも異なる色に見える場合があります。複数台の色を合わせるときは、視覚的に判断しながら微調整してください。

● ブライツネス

バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定範囲

0 ～ 100

参考

- ・ブライツネスが100でも暗いと感じた場合はコントラスト調整をおこなってください。

● コントラスト

ビデオ信号のレベルを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定範囲

0 ～ 100

参考

- 50ですべての色階調を表示します。
- 画面の明るさは、初めに、階調特性を損なうことのないブライトネスで調整することをお勧めします。
- コントラスト調整は次のような場合に使用してください。
 - ブライトネスが100でも画面が暗いと感じたとき。（コントラストを50以上に設定します。）

● 色温度

色温度を調整します。

通常「白」または「黒」の色合いを数値的に表現するときに用いられるもので、K：Kelvin（ケルビン）という単位で表します。

炎の温度と同様に、画面は色温度が低いと赤っぽく表示され、高いと青っぽく表示されます。また、色温度の設定値ごとにゲインのプリセット値が設定されています。

設定範囲

オフ / 4000K ～ 10000K（500K単位、9300K含む）

参考

- 「K」表示は調整の目安としてご利用ください。
- 「詳細設定」 - 「ゲイン」でさらに詳細な調整が可能です（「[ゲイン](#)」（P.19）参照）。
- 「オフ」でパネル本来の色（ゲインの値はRGB各100）になります。
- ゲインの値を変更すると、色温度は「オフ」になります。

● ガンマ

ガンマ値を調整します。モニターは入力される信号によって明るさが変化しますが、この変化率は入力信号と単純な比例関係にありません。そのため入力信号と明るさの関係が一定の関係になるよう制御をおこなうことをガンマ補正といいます。

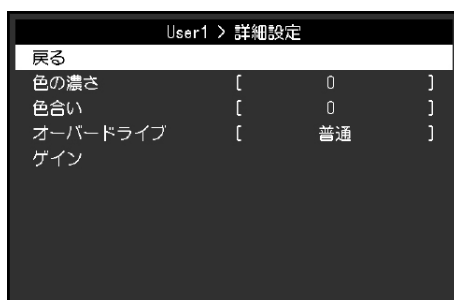
設定範囲

1.8 / 2.0 / 2.2

参考

- カラーモードで「sRGB」を選択すると、ガンマ値は「2.2」と表示されます。

● 詳細設定



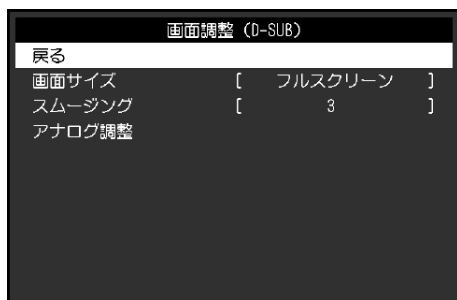
機能	設定範囲	説明
色の濃さ	-50 ～ 50	<p>色の濃さを調整します。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。 最小値（-50）で白黒の画面となります。
色合い	-50 ～ 50	<p>色合いを調整します。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。
オーバードライブ	強 / 普通 / オフ	<p>モニターの用途に応じて、オーバードライブの強さを設定することができます。</p> <p>動画を表示する場合は、「強」にすることで、残像感を低減します。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の場合は、オーバードライブ機能が無効になります。 <ul style="list-style-type: none"> - 入力信号の垂直走査周波数が70Hzを超える場合 - 「画面サイズ」で「ノーマル」または「拡大」を選択している場合（表示解像度が1280 × 1024のときを除く）
ゲイン	0 ～ 100	<p>色を構成する赤、緑、青のそれぞれの明るさをゲインと呼びます。これを調整することで、「白」の色調を変更することができます。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。 色温度の値に応じてゲインの値が変わります。 ゲインの値を変更すると、色温度は「オフ」になります。

● カラーリセット

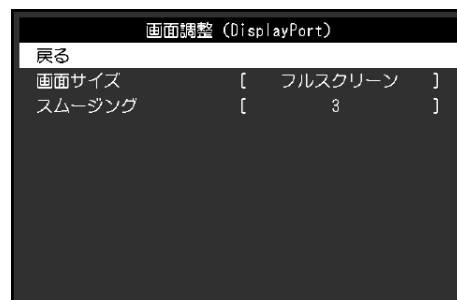
現在選択しているカラーモードのカラー調整値を初期設定に戻します。

4-3. 画面調整

D-Sub信号入力の場合



DisplayPort / DVI信号入力の場合

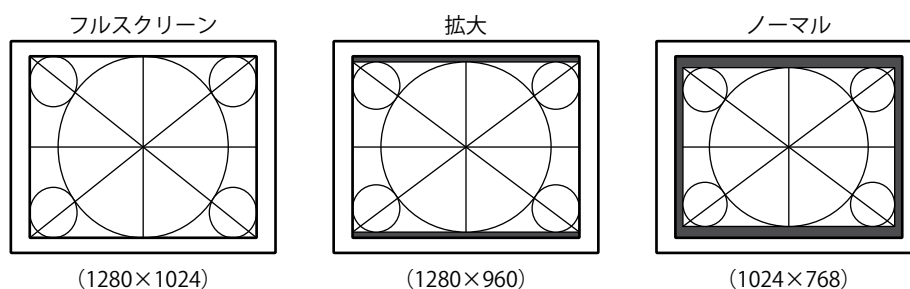


● 画面サイズ

推奨解像度以外の解像度は、自動的に画面全体に拡大されますが、「画面サイズ」機能を使用して表示サイズを切り替えることができます。

設定	機能
フルスクリーン	画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率は縦、横一定ではないため、表示画像に歪みが見られる場合があります。
拡大	画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率を縦、横一定にするため、水平、垂直のどちらかの方向に画像が表示されない部分が残る場合があります。
ノーマル	設定した解像度のままの大きさに画像が表示されます。

例：1024×768を表示した場合



● スムージング

推奨解像度以外の解像度を画面拡大（「画面サイズ」で「フルスクリーン」または「拡大」を選択）で表示した場合、表示された画像の文字や線がぼやけて見える場合があります。このぼやけを軽減することができます。

設定範囲

1 ～ 5

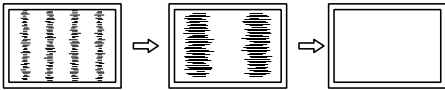
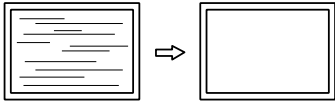
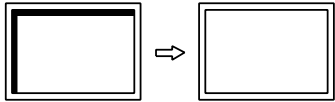
参考

- 表示解像度によってはスムージングを設定する必要はありません。（「スムージング」を選択することはできません。）

● アナログ調整



D-Sub信号入力時に、画面のちらつき、表示位置、サイズを調整できます。

機能	説明
自動画面調整	<p>画面のちらつき、表示位置、サイズを自動調整することができます。「自動画面調整」を選択すると、メッセージが表示されますので、「はい」を選択してください。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動画面調整機能は画面の表示可能エリア全体に画像が表示されている場合に正しく動作します。次のような場合には、正しく動作しません。 <ul style="list-style-type: none"> - コマンドプロンプトのような画面の一部にしか画像が表示されていない場合 - 壁紙など背景を黒で使用している場合 また、一部のグラフィックスボードで正しく動作しない場合があります。 モニターに初めて信号を入力した場合、またはこれまでに表示したことのない解像度や垂直走査周波数、水平走査周波数に変更した場合は、自動的に調整されます（解像度が800 × 600以上の信号のみ）。
自動レンジ調整	<p>信号の出力レベルを調整し、すべての色階調（0～255）を表示できるように自動調整できます。「自動レンジ調整」を選択すると、メッセージが表示されますので、「はい」を選択してください。</p>
クロック	<p>画面の縦線や画面の一部に見られるちらつきを軽減できます。</p>  <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定が合ったポイントを見逃しやすいので、▲▼を使って細かく調整してください。
フェーズ	<p>画面全体のちらつきやにじみを軽減できます。</p>  <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> お使いのコンピュータやグラフィックスボードによっては、完全になくならないものがあります。 設定後、画面に縦縞が現れた場合は、再度「クロック」を調整してください。
水平ポジション 垂直ポジション	<p>画面の表示位置（水平、垂直）を調整できます。</p>  <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 液晶モニターは画素数および画素位置が固定であるため、画像の正しい表示位置は1箇所です。ポジション調整とは画像を正しい位置に移動するための調整です。

4-4. サウンド設定

● 音源



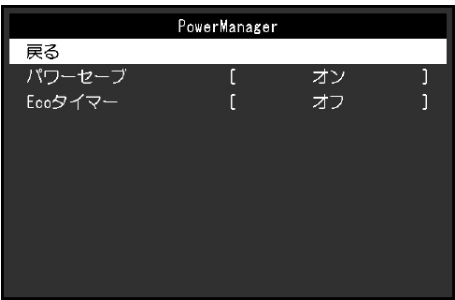
DisplayPort信号入力時の音源を切り替えます。

設定	機能
ステレオミニジャック	アナログ音声入力コネクタに接続されている音声を音源に設定します。
DisplayPort	DisplayPortケーブルで映像信号と同時に送信される音声を音源に設定します。

参考

- DVI信号入力時およびD-Sub信号入力時は、設定が「ステレオミニジャック」に固定されます。

4-5. Power Manager



● パワーセーブ

コンピュータの状態と連動してモニターを省電力モードにする / しないの切り替えができます。省電力モードに移行すると画面を非表示にします。

設定	機能
オン	コンピュータの状態と連動して、モニターを省電力モードに移行します。
オフ	コンピュータや信号入力の状態にかかわらず、省電力モードには移行しません。

参考
・ モニターを使用しないときは、主電源を切るか、電源プラグを抜くことで電力が消費されなくなります。
・ 信号が入力されなくなったことを検出してから、約15秒後に省電力モードに移行します。
・ モニターが省電力モードの場合でも、タッチパネルおよびUSBダウンストリームポートに接続している機器は動作します。
・ ステレオミニジャックケーブルが接続されている場合も消費電力は変化します。

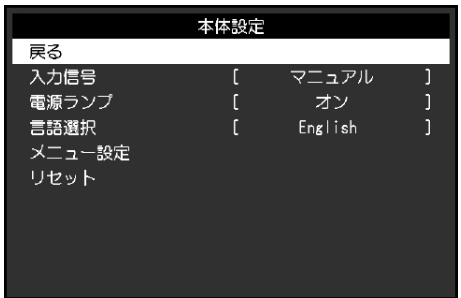
● Ecoタイマー

モニターの省電力モードが一定時間続いたときに、モニターの電源を自動的に切る / 切らないの切り替えができます。


設定範囲

オフ / 0 / 1 / 2 / 3 / 5 / 10 / 15 / 20 / 25 / 30 / 45min / 1 / 2 / 3 / 4 / 5h

4-6. 本体設定



● 入力信号

設定	機能
オート	信号が入力されているコネクタを自動的に判別して画面を表示します。コンピュータの電源が切れたり、省電力モードに入ると、自動的に他の信号を表示します。
マニュアル	信号が入力されているかどうかにかかわらず、選択されているコネクタからの信号を表示します。操作ボタンの  で表示させたい入力信号を選択してください。

参考

- ・「オート」が選択されている場合は、すべてのコンピュータが省電力モードに入っている場合のみモニターの省電力機能が動作します。

● 電源ランプ

画面表示時の電源ランプ（青）の点灯 / 消灯の切り替えができます。

設定	機能
オン	電源ランプを点灯します。
オフ	画面表示時でも電源ランプを消灯したままにします。

● 言語選択

設定メニューやメッセージの表示言語が選択できます。

選択できる言語

English / Deutsch / Français / Español / Italiano / Svenska / 日本語 / 簡体中文 / 繁體中文

●メニュー設定



機能	設定範囲	説明
起動ロゴ	オン / オフ	この製品の電源を入ると、画面にEIZOロゴが表示されます。この機能を「オフ」に設定すると、EIZOロゴを非表示にすることができます。
メニューポジション	中央 / 右上 / 右下 / 左下 / 左上	設定メニューの表示位置を移動できます。

●リセット

タッチパネルの有効 / 無効設定を除く、すべての設定内容を初期設定に戻します。

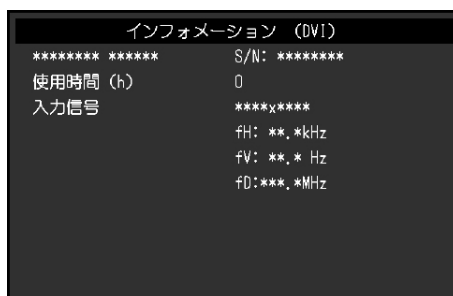
参考

- ・初期値については、「[主な初期設定値](#)」(P.37)を参照してください。

4-7. インフォメーション

モニターの情報（製品名、製造番号、使用時間、解像度、入力信号）を確認できます。

例：



4-8. 操作ボタンのロック

設定した状態を変更できないようにします。

設定方法

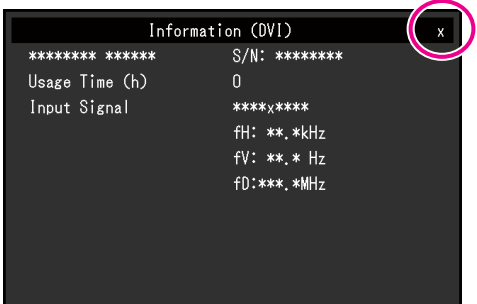
1. を押して、モニターの電源を切ります。
2. を押しながら を押してモニターの電源を入れます。
操作を実行するたびにロック/ロック解除が切り替わります。

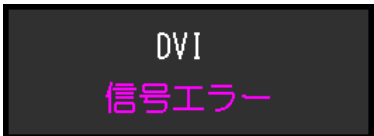
参考

- ・ロックした状態でも次の操作は可能です。
 - 電源ボタンによる電源オン / オフ

第5章 こんなときは

5-1. 画面が表示されない場合




症状	原因と対処方法
1. 画面が表示されない ・ 電源ランプが点灯しない	<ul style="list-style-type: none">電源コードは正しく接続されていますか。主電源を入れてください。⏻を押してください。主電源を切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。
・ 電源ランプが点灯：青色	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」、「ゲイン」の各調整値を上げてみてください（「4-2. カラー調整」(P.17) 参照）。
・ 電源ランプが点灯：橙色	<ul style="list-style-type: none">➡で入力信号を切り替えてみてください。マウス、キーボードを操作してみてください。パネル面にタッチしてみてください。コンピュータの電源は入っていますか。ご使用のコンピュータおよびグラフィックスボードによっては、入力信号が検出されず、省電力モードから復帰しない場合があります。マウス、キーボードを操作しても画面が表示されない場合は、モニターの電源ボタンで電源を切って、再度電源を入れてください。画面が表示されたら、次の手順を実行してください。症状が改善される場合があります。 <ol style="list-style-type: none">⏻を押して、モニターの電源を切ります。➡を押しながら⏻を押してモニターの電源を入れます。設定メニューの「インフォメーション」のメニュータイトルに「x」が表示されます（「4-7. インフォメーション」(P.25) 参照）。 <div data-bbox="826 1176 1305 1478">A screenshot of a monitor's OSD menu titled 'Information (DVI)'. The menu displays various system information: 'S/N: *****', 'Usage Time (h) 0', and 'Input Signal *****'. The 'Input Signal' section further details 'fH: **, *kHz', 'fV: **, * Hz', and 'fD: ***, *MHz'. A red circle highlights the 'x' icon in the top right corner of the menu.</div> <ol style="list-style-type: none">コンピュータを再起動します。 設定を元に戻す場合は、手順1～3を再度実行します。
・ 電源ランプが点滅：橙色	<ul style="list-style-type: none">コンピュータをDisplayPortコネクタに接続している場合に、この症状が発生することがあります。当社指定の信号ケーブルで接続し、モニターの電源を入れ直してみてください。

症状	原因と対処方法
2. 次のようなメッセージが表示される	この表示はモニターが正常に機能していても、信号が正しく入力されないときに表示されます。
例： 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータによっては電源を入れても信号がすぐに出力されないため、左のような画面が表示されることがあります。 ・コンピュータの電源は入っていますか。 ・信号ケーブルは正しく接続されていますか。 ・入力信号を切り替えてみてください。 ・背面の主電源スイッチを切り、もう一度スイッチを入れてみてください。 ・コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（「対応解像度」(P.36) 参照）。 ・コンピュータを再起動してみてください。 ・グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細はグラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。

5-2. 画面に関する症状（デジタル、アナログ共通）

症状	原因と対処方法
1. 画面が明るすぎる/暗すぎる	<ul style="list-style-type: none"> ・設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」を調整してください。（液晶モニターのバックライトには、寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたりするようになったら、お客様で相談窓口にご相談ください。）
2. 文字がぼやけて見える	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（「対応解像度」(P.36) 参照）。 ・推奨解像度以外の解像度で表示した場合、表示された画像の文字や線がぼやけて見える場合があります。設定メニューの「スモーキング」および「画面サイズ」で調整してみてください（「スモーキング」(P.20)、「画面サイズ」(P.20) 参照）。
3. 残像が現れる	<ul style="list-style-type: none"> ・この現象は液晶パネルの特性であり、固定画面で長時間使用することをできるだけ避けることをお勧めします。 ・長時間同じ画像を表示する場合は、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。
4. 画面に緑、赤、青、白のドットが残る / 点灯しないドットが残る	<ul style="list-style-type: none"> ・これらのドットが残るのは液晶パネルの特性であり、故障ではありません。
5. 画面上に干渉縞が見られる/パネルを押した跡が消えない	<ul style="list-style-type: none"> ・画面全体に白い画像または黒い画像を表示してみてください。症状が解消されることがあります。
6. 画面にノイズが現れる	<ul style="list-style-type: none"> ・設定メニューの「オーバードライブ」の設定を「オフ」にしてみてください（「オーバードライブ」(P.19) 参照）。 ・HDCPの信号を入力した場合、正常な画面がすぐに表示されないことがあります。

5-3. 画面に関する症状（アナログのみ）





症状	原因と対処方法
1. 画像がずれている 	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「ポジション」で画像の位置を合わせてください（「水平ポジション」（P.21）参照）。グラフィックスボードのユーティリティなどに画像の位置を変える機能があれば、その機能を使用して調整してください。
2. 次画面に縦線が出ている/画面の一部がちらついている 	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「クロック」で調整してみてください（「クロック」（P.21）参照）。
3. 画面全体がちらつく、にじむように見える 	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「フェーズ」で調整してみてください（「フェーズ」（P.21）参照）。

5-4. 画面に関する症状（デジタルのみ）

症状	原因と対処方法									
1. （DisplayPort信号入力時） 電源のオフ / オン時や省電力モードからの復帰時に、ウィンドウやアイコンの位置がずれる。マルチモニター環境で1台のモニターの電源をオフにすると、画面設定がシングルモニター表示に変更される	<ul style="list-style-type: none">次の手順で「DP Power Save」機能を「オフ」にしてみてください。なお、この機能を「オフ」にすることで消費電力が上がります。<ol style="list-style-type: none">🔌を押して、モニターの電源を切ります。▲/✱を押しながら🔌を押してモニターの電源を入れます。操作を実行するたびにこの機能の「オフ」 / 「オン」が切り替わります。 入力ポートや信号エラーの表示の配色によって、現在の設定状態を判断することができます。 <table><tr><th>設定</th><th>入力ポート</th><th>信号エラー</th></tr><tr><td>オン （出荷設定）</td><td>DisplayPort</td><td>DisplayPort 信号エラー</td></tr><tr><td>オフ</td><td>DisplayPort</td><td>DisplayPort 信号エラー</td></tr></table>	設定	入力ポート	信号エラー	オン （出荷設定）	DisplayPort	DisplayPort 信号エラー	オフ	DisplayPort	DisplayPort 信号エラー
設定	入力ポート	信号エラー								
オン （出荷設定）	DisplayPort	DisplayPort 信号エラー								
オフ	DisplayPort	DisplayPort 信号エラー								

5-5. タッチパネルに関する症状

専用のタッチパネルドライバ（CD-ROM内）を使用している場合、タッチパネルドライバの取扱説明書（CD-ROM内）もあわせて参照してください。

症状	原因と対処方法
1. タッチ操作が効かない	<ul style="list-style-type: none">・ モニターとコンピュータがUSBケーブルで接続されていることを確認してください。・  を押してみてください。・ モニターおよびコンピュータの電源コードのアースが接地されていることを確認してください。アースが接地されていないと、誤動作の原因となることがあります。・  を長押ししてみてください（「2-1. タッチパネルの有効 / 無効を設定する」（P.11）参照）。・ TPOffsetでタッチパネルの感度調整を実行してみてください。
2. タッチ位置とカーソル位置がずれる / カーソルが飛ぶ	<ul style="list-style-type: none">・ セットアップガイドに記載のケーブルでモニターとコンピュータを接続してください。変換アダプタなどを利用すると、タッチパネルが正しく動作しない場合があります。・ モニターの電源を入れなおしてみてください。・ タッチ位置の補正を実行してください。<ul style="list-style-type: none">- 専用のタッチパネルドライバを使用している場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。- Windows 標準ドライバを使用している場合は「3-2. タッチ位置を補正する」（P.13）を参照してください。・ モニターおよびコンピュータの電源コードのアースが接地されていることを確認してください。アースが接地されていないと、誤動作の原因となることがあります。・  を長押ししてみてください。・ モニターの位置や角度を変更すると、カーソルが飛ぶ場合があります。・ 金属をパネル面に近づけた状態で使用するとカーソル位置がずれる場合があります。・ タッチパネルが汚れていると、誤動作する場合があります。パネル面のクリーニングをおこなってください（「クリーニングの仕方」（P.4）参照）。・ パネル面のクリーニングに帯電防止剤入りのクリーナを使用するとタッチパネルの感度に影響し、カーソル位置がずれる原因になることがあります。・ コンピュータやモニターの起動時、および USB ケーブルの接続後、5 秒間はタッチしないでください。カーソル位置がずれたり、タッチ操作が効かなくなる場合があります。その場合は、およそ 2 分間タッチパネルに触れずにおくか、モニターの電源を入れなおしてください。それでも改善しないときは、 を長押ししてみてください。・ TPOffset でタッチパネルの感度調整を実行してみてください。・ モニターの画面サイズを切り替えると、カーソル位置がずれる場合があります。画面サイズを切り替えた場合は、タッチ位置の補正を実行してください。・ 推奨解像度以外の解像度で表示する場合、グラフィックスボードのスケーリング機能の影響でタッチ位置とカーソル位置がずれることがあります。その場合はグラフィックスドライバの設定を確認し、グラフィックスドライバでのスケーリングからモニターのスケーリングに変更してください。設定を変更した後、もう一度タッチ位置の補正を実施してください。

症状	原因と対処方法
3. カーソルがタッチ位置に表示されず、モニターの中央を中心に点対称の位置に表示される	<ul style="list-style-type: none"> タッチ位置の補正を実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> 専用のタッチパネルドライバを使用している場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。 Windows標準ドライバを使用している場合は「3-2. タッチ位置を補正する」(P.13)を参照してください。
4. カーソルが揺れる/描画線が安定しない	<ul style="list-style-type: none"> モニターおよびコンピュータの電源コードのアースが接地されていることを確認してください。アースが接地されていないと、誤動作の原因となることがあります。 TPOffsetでタッチパネルの感度調整を実行してみてください。 金属の影響がある場合、カーソルが安定しない場合があります。 複数台のモニターを近接して設置している場合は、モニター間の間隔をあけて設置してください。
5. タッチ位置の補正が正しく動作しない	<ul style="list-style-type: none"> 専用のタッチパネルドライバを使用している場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。 いったん調整状態をリセット（Windowsコントロールパネルの「タブレットPC設定」/「Tablet PC設定」の「画面」タブで「リセット」をクリック）して、タッチ位置の補正を実行してください（「3-2. タッチ位置を補正する」(P.13)参照）。 Windowsコントロールパネルの「タブレットPC設定」/「Tablet PC設定」の「画面」タブで「セットアップ」が完了した後に一度「タブレットPC設定」を閉じ、もう一度「タブレットPC設定」/「Tablet PC設定」の「画面」タブを開いてタッチ位置の補正を実行してみてください。
6. タッチ音が鳴らない	<ul style="list-style-type: none"> Windows 標準ドライバを使用している場合、タッチ音は鳴りません。タッチ音を鳴らす場合は専用のタッチパネルドライバを使用してください（「3-1. タッチパネルの設定方法」(P.13)参照）。 専用のタッチパネルドライバを使用していてタッチ音が鳴らない場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。
7. マルチタッチが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータを再起動してみてください。 専用のタッチパネルドライバを使用している場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。

注意点

- TPOffset（タッチパネルの感度調整用ソフトウェア）については、TPOffsetの取扱説明書（CD-ROM内）を参照してください。

5-6. その他の症状

症状	原因と対処方法
1. 設定メニューが表示できない	<ul style="list-style-type: none"> 操作ボタンのロックが機能していないか確認してみてください（「4-8. 操作ボタンのロック」（P.25）参照）。
2. 設定メニューにおいて、「画面調整」の「スモーキング」が選択できない	<ul style="list-style-type: none"> 次の表示解像度や設定の場合は、スモーキングを選択することができません。 <ul style="list-style-type: none"> - 解像度が1280×1024の場合 - 画面サイズが「ノーマル」の場合
3. 自動調整機能が動作しない	<ul style="list-style-type: none"> 自動調整機能はデジタル信号入力時には動作しません。 この機能はWindowsなど表示可能エリア全体に画像が表示されている場合に正しく動作します。コマンドプロンプトのような画面の一部にしか画像が表示されていない場合や、壁紙など背景を黒で使用している場合には正しく動作しません。 一部のグラフィックスボードで正しく動作しない場合があります。
4. 音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ステレオミニジャックケーブルは正しく接続されていますか。 音量が「0」になっていませんか。 コンピュータおよび音声を再生しているソフトウェアの設定を確認してください。 DisplayPort入力時は「音源」の設定を確認してみてください（「音源」（P.22）参照）。
5. モニターに接続しているUSB周辺機器が動作しない	<ul style="list-style-type: none"> USBケーブルは正しく接続されていますか。 別のUSBポートに差し替えてみてください。別のポートで正しく動作した場合は、お客様ご相談窓口にご相談ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。 コンピュータを再起動してみてください。 直接コンピュータと周辺機器を接続してみて、周辺機器が正しく動作した場合は、お客様ご相談窓口にご相談ください。 ご使用のコンピュータおよびOSがUSBに対応しているかご確認ください（各機器のUSB対応については各メーカーにお問い合わせください）。 Windowsをご使用の場合、コンピュータに搭載されているBIOSのUSBに関する設定をご確認ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。

第6章 ご参考に

6-1. オプションアーム取付方法

この製品はスタンド部分を取り外すことによって、オプションアーム（またはオプションスタンド）に取り付けることが可能になります。

注意点

- ・ 取り付けの際は、アームまたはスタンドの取扱説明書の指示に従ってください。
- ・ ケーブル類は、アームまたはスタンドを取り付けた後に接続してください。
- ・ 取り外したスタンドを昇降させないでください。モニター本体を取り付けていない状態でスタンドを昇降させると、けがや故障の原因となります。
- ・ モニターおよびアームまたはスタンドは重量があります。落としたりするとけがや故障の原因になります。

設置条件


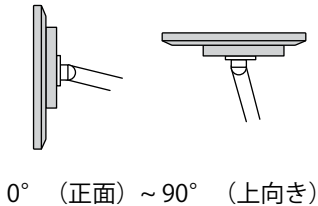
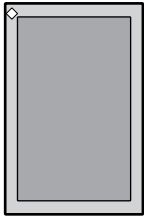
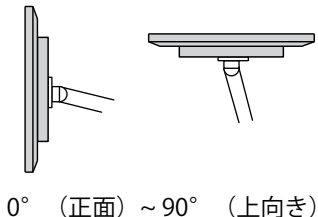
他社製のアームまたはスタンドを使用する場合は、次の点をアームまたはスタンドメーカーにご確認の上、VESA規格準拠のものを選択してください。

- 取付部のネジ穴間隔：100 mm × 100 mm
- プレート部の厚み：2.6 mm
- 許容質量：モニター本体の質量（スタンドなし）とケーブルなどの装着物の総質量に耐えられること

他社製のアームまたはスタンドを使用する場合、取り付けには次のねじをご使用ください。

- 本体部分とスタンドを固定しているねじ

アームまたはスタンド取り付け時の設置条件は次のとおりです。

設置方向		表示方向
横置き		 0°（正面）～90°（上向き）
縦置き		 0°（正面）～90°（上向き）

取付方法

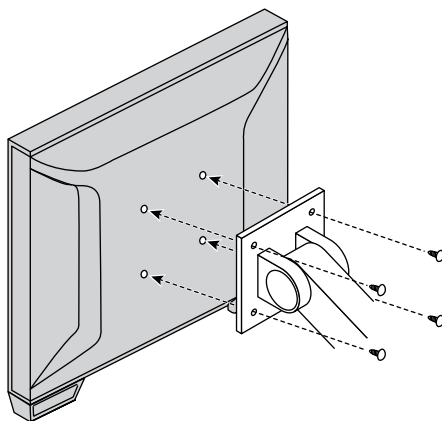
1. パネル面が傷つかないように、安定した場所に柔らかい布などを敷いた上に、パネル面を下に向けて置きます。

2. スタンド部分を取り外します。

ドライバを使って、本体部分とスタンドを固定しているねじを取り外します。

3. モニターにアーム（またはスタンド）を取り付けます。

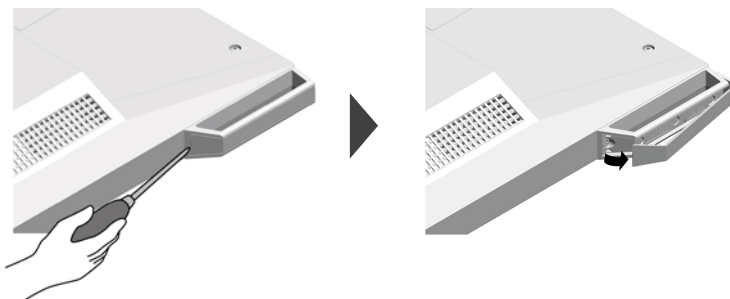
アームまたはスタンドの取扱説明書で指定のねじを使って取り付けます。



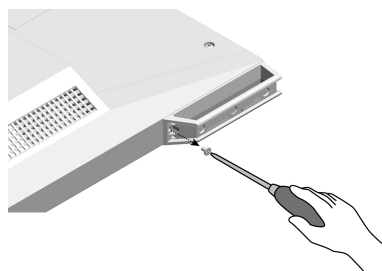
参考

- レイドバックスタンドの場合、縦置きに設置するときは、次の手順でモニターの底面の脚を取り外してください。
- 取り外した部品は大切に保管してください。

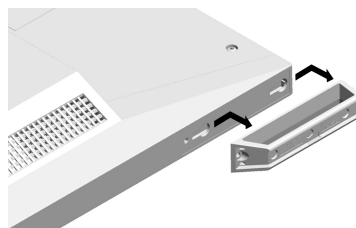
1. 脚のカバーを取り外します。



2. 本体部分と足を固定しているねじを取り外します。



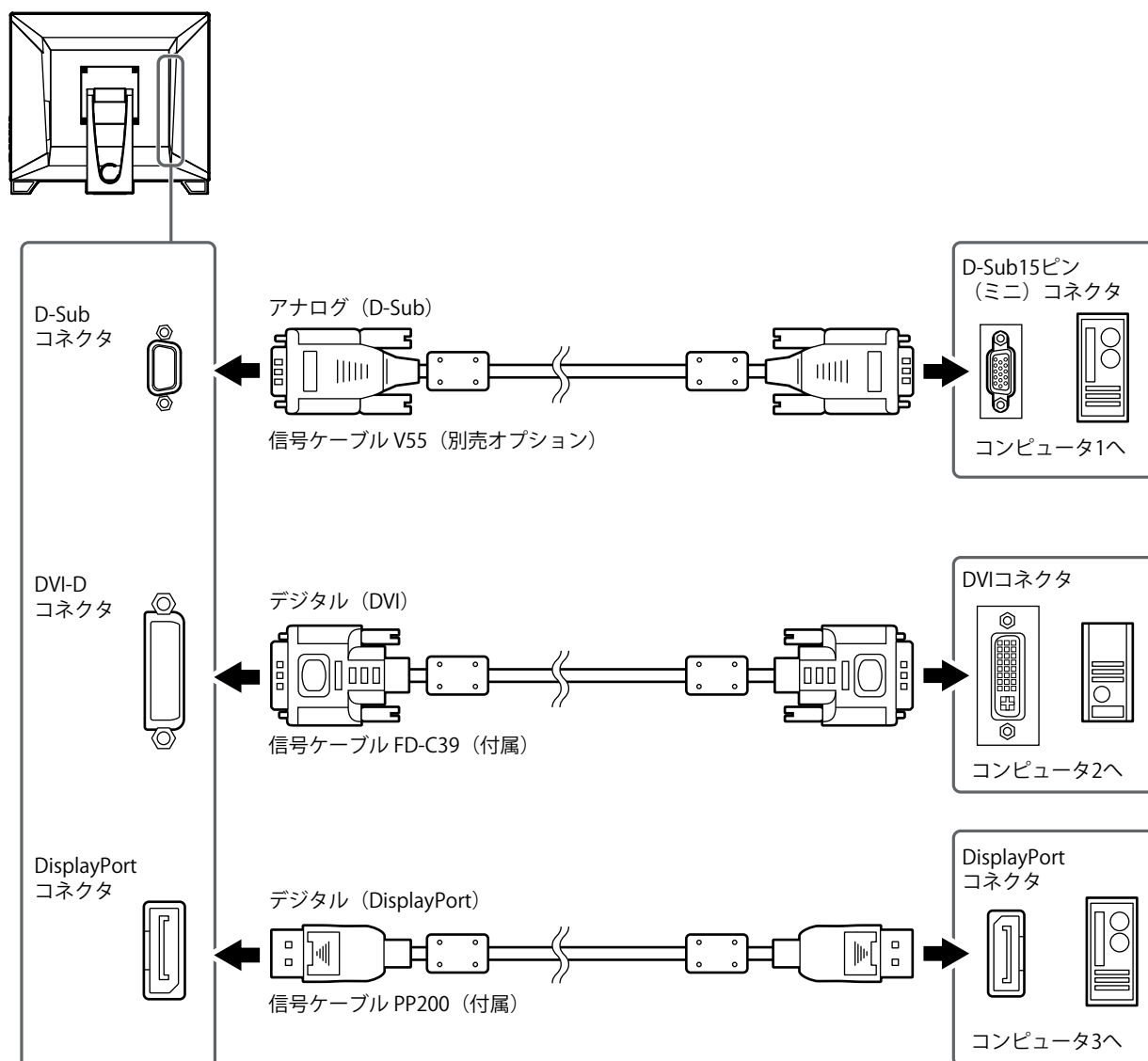
3. 次の図のように、モニターの外側に向かってスライドして足を取り外します。
付属のシールを貼ると穴をふさぐことができます。



6-2. 複数のコンピュータを接続する

この製品は、複数のコンピュータを接続し、切り替えて表示することができます。

接続例



注意点

- タッチパネルはUSB接続されているモニターに対してのみ動作します。

6-3. 仕様

液晶パネル	種類	IPS	
	バックライト	LED	
	サイズ	43.3 cm (17.0) 型	
	解像度	1280ドット×1024ライン	
	表示面積	337.9 mm × 270.3 mm (横×縦)	
	画素ピッチ	0.264 mm	
	表示色	8 bit カラー：1677万色	
	視野角	178° / 178° (水平 / 垂直、標準値)	
	応答速度	中間階調域：約 6 ms (オーバードライブ設定：強、標準値)	
タッチパネル	表面処理	アンチグレア	
	表面硬度	5H	
	通信手段	USB転送	
	検出方式	投影型静電容量方式	
	対応OS※ ¹	Microsoft Windows 11 (64ビット版) Microsoft Windows 10 (32ビット版 / 64ビット版) Microsoft Windows 8.1 (32ビット版 / 64ビット版) Microsoft Windows 7 (32ビット版 / 64ビット版)	
	同時タッチ点数	10点まで	
映像信号	入力端子	デジタル	DisplayPort×1、DVI-D×1 (HDCP対応)
		アナログ	D-Sub 15ピン (ミニ)
	デジタル走査周波数	水平	31 kHz ~ 64 kHz
		垂直	59 Hz ~ 61 Hz (720×400 : 69 Hz ~ 71 Hz)
	アナログ走査周波数	水平	31 kHz ~ 81 kHz
		垂直	55 Hz ~ 76 Hz
	同期信号	セパレート	
	ドットクロック (最大)	デジタル	108 MHz
		アナログ	135 MHz
USB	ポート	アップストリームポート×1	
		ダウンストリームポート×2	
	規格	USB Specification Rev 2.0	
	通信速度	480 Mbps (ハイスピード) / 12 Mbps (フルスピード) / 1.5 Mbps (ロースピード)	
	供給電源	ダウンストリームポート：最大500 mA / 1ポート	
音声	入力	端子	ステレオミニジャック×1 DisplayPort×1 (映像信号と共用) - フォーマット：2チャンネルリアPCM (32 kHz / 44.1 kHz / 48 kHz / 88.2 kHz / 96 kHz)
		端子	ステレオミニジャック×1 (ヘッドホン用)
	出力	スピーカー	1.0 W + 1.0 W
		ヘッドホン	2.0 mW + 2.0 mW
電源	入力	AC 100 V±10%、50 Hz / 60 Hz、0.60 A	
	消費電力	最大	37 W以下
		省電力時	0.7 W以下 D-Sub入力のみ接続、USB非接続、オーディオケーブル非接続、「本体設定」 - 「入力信号」：「オート」設定時
		待機時	0.7 W以下 D-Sub入力のみ接続、USB非接続、オーディオケーブル非接続時

機構	外観寸法 (幅×高さ×奥行)	レイドボックス スタンド仕様	高さ最小	391.8 mm×142.5 mm×400.4 mm (チルト70°)
			高さ最大	391.8 mm×348 mm×214.9 mm (チルト15°)
		チルトスタンド 仕様	高さ最小	391.8 mm×410.8 mm×157 mm (チルト0°)
			高さ最大	391.8 mm×419.6 mm×186.7 mm (チルト30°)
		モニター部		391.8 mm×330.6 mm×54 mm
	質量	レイドボックス スタンド仕様	4.8 kg	
		チルトスタンド 仕様	6.7 kg	
		モニター部	4.3 kg	
	チルト	レイドボックス スタンド仕様	15° ～ 70°	
		チルトスタンド 仕様	0° ～ 30°	
環境条件	動作範囲	温度	5℃ ～ 35℃	
		湿度	20% ～ 80%R.H. (非結露状態)	
		気圧	540 hPa ～ 1060 hPa	
	輸送 / 保存範囲	温度	-20℃ ～ 60℃	
		湿度	10% ～ 92%R.H. (非結露状態)	
		気圧	200 hPa ～ 1060 hPa	

※1 OS提供元のサポート終了にともない、当社のサポートも終了します。

● 対応解像度

アナログ信号 (D-Sub) 入力時

解像度	垂直走査周波数
640 × 480	60 Hz ～ 75 Hz
720 × 400	70 Hz
800 × 600	56 Hz ～ 75 Hz
1024 × 768	60 Hz ～ 75 Hz
1280 × 720	60 Hz
1280 × 960	60 Hz
1280 × 1024※1	60 Hz ～ 75 Hz

※1 推奨解像度です。

デジタル信号（DisplayPort / DVI-D）入力時

解像度	垂直走査周波数	DisplayPort	DVI-D
640 × 480	60 Hz	○	○
720 × 400	70 Hz	○	○
720 × 480	60 Hz	○	-
800 × 600	60 Hz	○	○
1024 × 768	60 Hz	○	○
1280 × 720	60 Hz	○	○
1280 × 960	60 Hz	○	○
1280 × 1024 ^{※1}	60 Hz	○	○

※1 推奨解像度です。

● 主な初期設定値

タッチパネル	有効
カラーモード	User1
画面サイズ	フルスクリーン
スムージング	3
パワーセーブ	オン
Ecoタイマー	オフ
言語選択	日本語
メニューポジション	中央
入力信号	オート

● オプション品

タッチペン	TP5
信号ケーブル	V55

オプション品に関する最新情報は、当社のWebサイトを参照してください。

<http://www.eizo.co.jp>

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing, LLCの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

DisplayPortコンプライアンスロゴ、VESAはVideo Electronics Standards Associationの登録商標です。

SuperSpeed USB Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の登録商標です。



Kensington、MicrosaverはACCO Brands Corporationの登録商標です。

ThunderboltはIntel Corporationの米国および/またはその他の国における商標です。

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

AdobeはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国およびその他の国における登録商標です。

Apple、macOS、Mac OS、OS X、Macintosh、ColorSyncはApple Inc.の登録商標です。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、ScreenManagerはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

ColorEdge Tablet Controller、ColorNavigator、CuratOR、EcoView NET、EIZO EasyPIX、EIZO Monitor Configurator、EIZO ScreenSlicer、G-Ignition、i・Sound、Quick Color Match、RadiLight、Re/Vue、Screen Administrator、Screen InStyle、UniColor ProはEIZO株式会社の商標です。

その他の各会社名、各製品名は、各社の登録商標または商標です。

ライセンス

本製品上で表示される文字には、リコーインダストリアルソリューションズ株式会社が制作したビットマップフォントを使用しています。

VCCI

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

また、製品の付属品（ケーブルを含む）や当社が指定するオプション品を使用しない場合、VCCIの技術基準に適合できない恐れがあります。

医療規格

この製品を用いる医療用途の装置を設計、使用する場合は、IEC60601-1の規格要求に従ってください。

その他規格

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

この装置は、高調波電流を抑制する日本工業規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

EMC情報

DuraVision FDS1782Tは、医用画像を適正に表示する性能を有しています。

意図した使用環境

DuraVision FDS1782Tは次の環境での使用を意図しています。

- ・ 医院・病院などの専門的ヘルスケア施設内の環境

次のような環境での使用は意図していません。

- ・ ホームヘルスケア環境
- ・ 電気メスなどの高周波手術機器の近傍
- ・ 短波治療機器の近傍
- ・ MRI用RF遮蔽室内
- ・ 遮蔽された場所の特殊環境内
- ・ 救急車両を含む車載
- ・ その他特殊環境



警告

DuraVision FDS1782Tは、EMC（電磁両立性）に関する特別な安全上の注意を必要とします。EMC情報および本書内の「使用上の注意」をよくお読みになり、以下の指示に従って、設置、操作する必要があります。

DuraVision FDS1782Tは、他の機器に隣接した設置や積み重ねた状態で使用をしないでください。やむを得ずその状態で使用する場合は、DuraVision FDS1782Tおよびシステムが実際に使用される構成で正常に動作することを確認してください。

携帯型RF通信機器は、ケーブルを含むDuraVision FDS1782Tのいかなる部分に対しても、30cm（12インチ）以上離して使用してください。DuraVision FDS1782Tに影響を与える恐れがあります。

信号入力部または出力部に追加装置を接続し、医療システムで使用する場合は、必ずIEC60601-1-2の要件に準拠してください。

DuraVision FDS1782Tの使用中は信号入出力コネクタ類には触らないでください。表示画像に影響を与える恐れがあります。

ケーブルは、必ず付属品または当社の指定するケーブルを使用してください。

指定以外のケーブルを使用した場合、電磁妨害波の増加、電磁妨害に対する耐性低下の恐れがあります。

ケーブル	EIZO指定ケーブル	最大ケーブル長	シールド	フェライトコア
信号ケーブル（DisplayPort）	PP200	2 m	シールドあり	フェライトコアあり
信号ケーブル（DVI）	FD-C39 / DD200	2 m	シールドあり	フェライトコアあり
信号ケーブル（D-Sub）	MD-C87 / V55	1.8 m	シールドあり	フェライトコアあり
USBケーブル	MD-C93	1.8 m	シールドあり	フェライトコアあり
オーディオケーブル	—	2.1 m	シールドあり	フェライトコアなし
ヘッドフォンケーブル	—	3 m	シールドあり	フェライトコアなし
電源ケーブル（アース付き）	—	2 m	シールドなし	フェライトコアなし

技術的説明

電磁エミッション

DuraVision FDS1782Tは、次に規定する電磁環境内での使用を意図している。

顧客またはDuraVision FDS1782Tの使用者は、次の環境でDuraVision FDS1782Tが使用されていることを確認すること。


エミッション試験	適合性	電磁環境 - ガイダンス
RFエミッション CISPR11	グループ1	DuraVision FDS1782Tは、内部機能のためだけにRFエネルギーを使用している。したがって、そのRFエミッションは非常に低く、近傍の電子機器に対して何らかの干渉を生じさせる可能性は少ない。
RFエミッション CISPR11	クラスB	DuraVision FDS1782Tは、住居環境および住居環境の建物に供給する公共の低電圧用の配電網に直接接続された建造物を含む、すべての施設での使用に適している。
高調波エミッション IEC61000-3-2	クラスD	
電圧変動/ フリッカエミッション IEC61000-3-3	適合	

電磁イミュニティ

DuraVision FDS1782Tは、IEC60601-1-2で規定される専門的ヘルスケア施設環境での要求試験レベル（T）に対して、次の適合レベル（C）で試験されている。

顧客またはDuraVision FDS1782Tの使用者は、次の環境でDuraVision FDS1782Tが使用されていることを確認すること。

イミュニティ試験	試験レベル（T）	適合レベル（C）	電磁環境 - ガイダンス
静電気放電（ESD） IEC61000-4-2	±8 kV 接触放電 ±15 kV 気中放電	±8 kV 接触放電 ±15 kV 気中放電	床は、木材、コンクリートまたはセラミックタイルであること。床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は、少なくとも30%であること。
電氣的ファストトランジェント/バースト IEC61000-4-4	±2 kV 電源ライン ±1 kV 入出力ライン	±2 kV 電源ライン ±1 kV 入出力ライン	供給電源の品質は、標準的な商用または病院環境と同じであること。
サージ IEC61000-4-5	±1 kV ライン-ライン間 ±2 kV ライン-接地間	±1 kV ライン-ライン間 ±2 kV ライン-接地間	供給電源の品質は、標準的な商用または病院環境と同じであること。
交流電源における電圧ディップ、瞬時停電、および電圧変動 IEC61000-4-11	0 %U _T （100 %U _T のディップ）0.5サイクル、1サイクル 70 %U _T （30 %U _T のディップ）25サイクル / 50 Hz 0 %U _T （100 %U _T のディップ）250サイクル / 50 Hz	0 %U _T （100 %U _T のディップ）0.5サイクル、1サイクル 70 %U _T （30 %U _T のディップ）25サイクル / 50 Hz 0 %U _T （100 %U _T のディップ）250サイクル / 50 Hz	電源の品質は、標準的な商用または病院環境と同じであること。DuraVision FDS1782Tの使用者が、電源の停電中にも連続した稼働を要求する場合は、DuraVision FDS1782Tへの電力を無停電電源または電池から供給することを推奨する。
電力周波数磁界 IEC61000-4-8	30 A/m (50 / 60 Hz)	30 A/m	電力周波数磁界は、標準的な商用または病院環境における一般的な場所と同レベルの特性を持つこと。 電力周波数磁界の発生源とは少なくとも15cm以上離して使用すること。

電磁イミュニティ			
DuraVision FDS1782Tは、IEC60601-1-2で規定される専門的ヘルスケア施設環境での要求試験レベル（T）に対して、次の適合レベル（C）で試験されている。			
顧客またはDuraVision FDS1782Tの使用者は、次の環境でDuraVision FDS1782Tが使用されていることを確認すること。			
イミュニティ試験	試験レベル（T）	適合レベル（C）	電磁環境 - ガイダンス
RF電磁界による伝導妨害 IEC61000-4-6	3 Vrms 150 kHz～80 MHz 6 Vrms 150 kHz～80 MHz間のISM帯域 ^{a)}	3 Vrms 6 Vrms	携帯型および移動型RF通信機器は、ケーブルを含むDuraVision FDS1782Tのいかなる部分に対しても、送信機の周波数に該当する方程式から計算された推奨分離距離より近づけて使用しないこと。 推奨分離距離 $d = 1.2\sqrt{P}$ $d = 1.2\sqrt{P}$
放射RF電磁界 IEC61000-4-3	3 V/m 80 MHz～2.7 GHz	3 V/m	$d = 1.2\sqrt{P}$ 80 MHz～800 MHz $d = 2.3\sqrt{P}$ 800 MHz～2.7 GHz ここでPは、送信機製造業者によるワット（W）で表した送信機の最大定格出力電力であり、dはメートル（m）で表した推奨分離距離である。 電磁界の現地調査 ^{b)} によって決定する固定RF送信機からの電界強度は、各周波数範囲 ^{c)} における適合レベルよりも低いこと。 次の記号が表示されている機器の近傍では、干渉が発生する可能性がある。 
注記 1	UTは、試験レベルを加える前の、交流電源電圧である。		
注記 2	80 MHzおよび800 MHzにおいては、高い周波数範囲を適用する。		
注記 3	RF電磁界による伝導妨害や放射RF電磁界に関するこれらの指針は、すべての状況に対して適用するものではない。建築物、物、人からの吸収および反射は、電磁波の伝搬に影響する。		
a)	150 kHz～80 MHz間のISM（工業用、科学用および医学用）帯域は、6.765 MHz～6.795 MHz、13.553 MHz～13.567 MHz、26.957 MHz～27.283 MHz、および40.66 MHz～40.70 MHzである。		
b)	例えば、（携帯/コードレス）電話および陸上移動無線の基地局、アマチュア無線、AM/FMラジオ放送およびTV放送などの固定送信機からの電界強度を、正確に論理的に予測することはできない。固定RF送信機による電磁環境を見積もるためには、電磁界の現地調査を考慮すること。DuraVision FDS1782Tが使用される場所において測定した電界強度が、上記の適用されるRF適合性レベルを超える場合は、DuraVision FDS1782Tが正常に動作するかを検証するために監視すること。異常動作が確認された場合は、DuraVision FDS1782Tの再配置または再設置のような追加対策が必要になることがある。		
c)	周波数範囲150 kHz～80 MHzにわたって、電界強度は3 V/m未満であること。		

携帯型および移動型RF通信機器との間の推奨分離距離と確認された各種通信機器サービス

DuraVision FDS1782Tは、放射RF妨害が管理されている電磁環境内での使用を意図している。顧客またはDuraVision FDS1782Tの使用者は、携帯形及び移動型RF通信機器(送信機)とDuraVision FDS1782Tとの間の最小距離（30cm）を維持することで、電磁妨害を抑制することができる。

以下のRF通信サービスにおける近接電磁界イミュニティの要求試験レベル（T）に対して、DuraVision FDS1782Tは次の適合レベル（C）で試験されている。

試験周波数 (MHz)	帯域 ^{a)} (MHz)	サービス ^{a)}	変調 ^{b)}	試験レベル (T) ^{c)} (V/m)	適合レベル (C) (V/m)
385	380~390	TETRA 400	パルス変調 ^{b)} 18 Hz	27	27
450	430~470	GMRS 460, FRS 460	FM ±5 kHz偏差 1 kHz正弦	28	28
710	704~787	LTE帯域13,17	パルス変調 ^{b)} 217 Hz	9	9
745					
780					
810	800~960	GSM800/900, TETRA 800, iDEN 820 CDMA 850, LTE帯域5	パルス変調 ^{b)} 18 Hz	28	28
870					
930					
1720	1700~1990	GSM 1800; CDMA 1900; GMS 1900; DECT; LTE帯域1,3,4,25; UMTS	パルス変調 ^{b)} 217 Hz	28	28
1845					
1970					
2450	2400~2570	ブルートゥース, WLAN, 802.11 b/g/n, FIRD 2450, LTE帯域7	パルス変調 ^{b)} 217 Hz	28	28
5240	5100~5800	WLAN 802.11a/n	パルス変調 ^{b)} 217 Hz	9	9
5500					
5785					
a)	サービスによっては、アップリンク周波数のみ含まれる。				
b)	搬送波は、50 %デューティサイクル矩形波信号を用いて変調した。				
c)	試験レベルは、最大電力、30 cmの分離距離により計算した。				

顧客またはDuraVision FDS1782Tの使用者は、RF送信機とDuraVision FDS1782Tとの間の最小距離（15cm）を維持することで、近接磁界による妨害を抑制することができる。

以下の近接磁界イミュニティの要求試験レベル（T）に対して、DuraVision FDS1782Tは次の適合レベル（C）で試験されている。

試験周波数	変調	試験レベル (T) (A/m)	適合レベル (C) (A/m)
134.2 kHz	パルス変調 ^{a)} 2.1 kHz	65	65
13.56 MHz	パルス変調 ^{a)} 50 kHz	7.5	7.5
a)	搬送波は、50 %デューティサイクル矩形波信号を用いて変調した。		

その他の携帯型及び移動型RF通信機器(送信機)について、通信機器の最大出力に基づくDuraVision FDS1782Tとの間の最小距離は、次のとおりである。

送信機の最大定格出力 (W)	送信機の周波数に基づく分離距離 (m)		
	150 kHz～80 MHz $d = 1.2\sqrt{P}$	80 MHz～800 MHz $d = 1.2\sqrt{P}$	800 MHz～2.7 GHz $d = 2.3\sqrt{P}$
0.01	0.12	0.12	0.23
0.1	0.38	0.38	0.73
1	1.2	1.2	2.3
10	3.8	3.8	7.3
100	12	12	23
上記にリストされていない最大定格出力の送信機に関しては、送信機の周波数に対応する式を使用して推奨分離距離d（単位はメートル（m））を決定できる。ここで、Pは送信機製造業者による送信機の最大定格出力（単位はワット（W））である。			
注記 1	80 MHzおよび800 MHzにおいて、分離距離は高い周波数範囲を適用する。		
注記 2	RF電磁界による伝導妨害や放射RF電磁界に関するこれらの指針は、すべての状況に対して適用するものではない。建築物、物、人からの吸収および反射は、電磁波の伝搬に影響する。		

アフターサービス

この製品のサポートに関してご不明な場合は、別紙「お客様ご相談窓口のご案内」に記載の窓口にお問い合わせください。

保証書について

この製品の保証書はセットアップガイドにあります。必要事項をご記入の上、購入日が分かる書類（レシートなど）とともに保管してください。

修理を依頼されるとき

- ・保証期間中の場合
保証書の規定に従い、修理または交換をさせていただきます。
- ・保証期間を過ぎている場合
修理範囲（サービス内容）、修理費用の目安、修理期間、修理手続きなどを説明いたします。

修理を依頼される場合にお知らせいただきたい内容

- ・お名前、ご連絡先の住所、電話番号/FAX番号
- ・お買い上げ年月日、販売店名
- ・製品名、製造番号
（製造番号は、本体の背面部のラベルに表示されている8桁の番号です。例）S/N 12345678）
- ・使用環境（コンピュータ / グラフィックスボード / OS、システムのバージョン / 表示解像度など）
- ・故障または異常の内容（できるだけ詳細に）

製品回収、リサイクルシステムについて

パソコン及びパソコン用モニターは「資源有効利用促進法」の指定再資源化製品に指定されており、メーカーは自主回収及び再資源化に取り組むことが求められています。

当社製品は、一般社団法人「パソコン3R推進協会」が回収させていただきます。

回収を希望されるお客様は当社のWebサイトよりお申し込みください。

(<http://www.eizo.co.jp>)

※ この製品は業務用途を意図した製品ですので、ご使用後廃棄される場合は有償となります。

